# やまべ社協

いのち輝く人生

第49号
発行
山辺地区社会福祉協議会
事務局
山辺公民館内
TEL 0284(71)0516

すなおな心（はい）　反省の心（すみません）　謙虚な心（おかげさま）
奉仕の心（私がします）　感謝の心（ありがとう）　山辺地区日常五心

## 文化祭模擬店　天気よく売れ行きも人気も上々

冷たい雨だった昨年とは打って変わって、秋晴れの暖かい晴天に恵まれ、穏やかな文化祭日和だった。山辺の文化祭は展示作品も芸能部門もその出来栄え、規模において市内随一だろうと、すこぶる評価は高い。

その中で地区社協は文化祭に訪れる方々にカレーやヤキソバ、更にはワタアメ、カキ氷等を提供販売し文化祭を楽しんでもらうと共に、得られた利益は福祉資金に活用させて頂く形で参加。

中学生ボランティアありがとう！
校長先生と一緒にイェーイ！

ボランティアとして調理やテント設営、屋台品販売等に尽力してくれたのは老人給食委員をはじめ育成連、子育てサロン委員、地区社協理事等の主力の面々。

これに山辺中の5名と一般ボラからの2名を加えて計79名の多勢が参加してくれた。

また三年前より、寄付頂ける手芸品の販売専用テントも設けたが、今年も素敵な作品群を提供頂いて、多勢の方に購入いただけた。

更に地域の皆さんから当模擬店へ多くの食材や資材等の寄付や貸与を頂けたこともあって、予期以上の素晴らしい成果のある出店実績となった。それは数字だけではなく、この地区に暮らす住民が連携し協力しあって成し遂げていく「祭」にふさわしい連帯感を醸成できたのではないかとも思う。改めてご協力・ご寄付頂きました方々及び山辺公民館に心より御礼申し上げます。

味も量も満点と褒められた
ヤキソバ部隊

### 寄付者一覧

- 三田　敏夫様　お米
- 石川商店様　調理用ガス
- 齋藤八重子様　山菜おこわ
- 三田　忠良様　じゃがいも
- 永倉みさを様　じゃがいも
- 村井せつ子様　じゃがいも
- 仁木　明子様　じゃがいも
- 阿左美径子様　手芸品
- 小池　光代様　手芸品
- 伊藤眞津江様　手芸品
- 齋藤ユキヨ様　手芸品
- 清水　弘子様　手芸品
- 長島世津子様　手芸品
- 石田　厚子様　手芸品
- 広部知津子様　手芸品
- 川崎　フミ様　手芸品
- 佐藤祥一郎様　手芸品
- 匿名様　洋服品

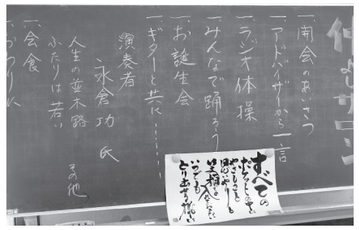


## いきいきサロン　運営者交流会

山辺には現在9のサロンが活動しているが、先に立って運営する担い手の方々には苦労や悩みもある。他のサロンではどんな工夫をしているかな?、こんな時にはどうすれば?、等情報交換を主として運営者交流会を6月に開催した。現サロンの運営者だけでなく開催を検討している町内も加わって25名の参加の下に活発な意見交換がなされた。

サポーターを増やしたい、男性の参加が少ない、内容がマンネリになる、送迎時の事故が心配、等の悩みにも助言意見あって参考となる交流会だった。

現サロンは八幡一、三、五、中川、西新井、朝倉一、二、三田中一である。



サロンメニューの一例

が、今年中には更に2つ出来そうで期待される。

## 福祉ボランティアだより

生きがい・目標としてあるいは趣味として踊りや歌、楽器演奏等の芸能の道に励まれ、更にそれを生かして施設等でのボランティア活動に取り組まれている方々が多くおられる。地区社協はそれらの方々の奉仕心を少しでも応援できればと、登録福祉ボランティア制を設けている。これはボランティア保険対応をとって紹介PR名簿を作成し老人施設・介護施設・児童福祉施設等にお送りするもので、今年度も74の施設等にお送りした。

又、ボランティア活動上の課題検討や情報交換等の交流会を6月に開催した。

第1回の発表大会の模様です

席上、3年前に登録団体が一堂に会しての発表会を実施したが今年再度実施したらどうか、の提案があり、3月7日(土)開催目標として、事務局検討に入ることとした。

## 郷土山辺の今昔物語　第三回

### 戦後の繊維復興の拠点 ―トリコット団地―

田部井　健二

戦前の昭和を「銘仙の足利」と言えば、戦後の昭和は「トリコットの足利」ということになる。繊維の町足利は戦後の混乱期を乗り越え、経メリヤスのトリコット工業を開拓し繊維業界を復興させた。多くの方々の努力があり、昭和42年には布地や製品等の売上高が年150億円を突破し、全国1位を誇る生産地となった。その拠点となったのがトリコット団地である。

所在地は朝倉町北部から田中町南部にまたがる約33万㎡の広さ。昭和35年に着工し昭和41年に完成した。当初の会社数は20社で、足利の大きな繊維会社が多数加入していた。

ここにトリコット工業隆盛を物語る事実がある。

昭和44年、昼間二部制の定時制高校として県立足利女子高等学校西分校が葉鹿町に設置された。これは地元産業界の強い要望で設置されたもので、主として市内各企業で働く中卒女子従業員に対し、高等学校進学の夢を実現させようとしたものであった。最初の入学生徒数は106名であったが、出身地は遠く九州・北海道そして県内・近隣県等広範囲であった。市内繊維企業の中で寮生活をするものが多く、全員が各企業のスクールバスで登下校し、勤労と学習の充実した生活をしていたようである。西分校はその後西高校として独立したが、現在は足利清風高校に統合された。

今、旧トリコット団地を貫く国道293号線の一角に「トリコット通り」と記された道路標識があり、往時の繁栄が偲ばれる。

当時のトリコット団地

# 敬老会

## 各町内で開かれる趣向をこらした演芸に人気

9月6日から16日にかけて恒例の敬老会が開催された。75才以上の対象者は全市で二一、六〇〇名、山辺全体では昨年より五六名増の二、四一九名。内容は各町内毎に工夫をこらして実施された。支部だよりとして寄せられたいくつかを紹介する。

八幡一丁目…手作りけんちん汁に来賓議員も絶賛。演芸の部は従来のカラオケをやめ堀込の関口さんのマジックショーに。観客も何人か参加の舞台構成で共に楽しんだ。

熱演の舞台に拍手喝さいが

借宿一丁目…4町合同で昨年同様地域の芸達者の方々の踊りや演奏で楽しむ。

中川町…サロンに顔出ししてない人も参加され、自治会館ほぼ満杯となって盛況だった。

西新井町…演芸は町内の八木節・大正琴・フラダンス。出席者全員でナツメロを合唱して盛り上がる。

堀込二丁目…3町合同で市内一の規模は今年も。市長挨拶ではパネル十数枚を使っての市政報告もあって勉強になった。演芸では出演者は町内限定とするも希望が引きも切らず嬉しい悲鳴。レベルはすばらしい。

朝倉3丁目…103才の方にお祝いの花束を用意したが出席されず後刻お届けした。

田中一・二丁目・四町合同で開会、来賓の挨拶、行政関係から特殊詐欺防止講話、交通事故防止の注意点を頂く。

演芸の部では山辺中吹奏楽部によるリコーダー演奏。式典参座態度や一生懸命演奏してくれる姿にとても感動したとの声。

# 風船バレーボールに熱くなる

## 障がい者とのスポーツ交流会を実施

澄み切った秋晴れの暖かい11月3日、障害者スポーツセンターで交流会を開催した。市社協と肢体不自由児父母の会の主催であるが、山辺地区社協がサポート隊となって楽しく有意義なひと時を持つ事ができた。

参加者は父母の会から7組の親子、市社協4名、地区社協から12名、3班に分かれてゲーム対抗戦を楽しんだ。

特に風船バレーボールでは味方全員が1回はタッチして相手コートへ返すルールで行われたが、交代で車いすをおしながらサポート隊が夢中になってしまうシーンが随所にみられ、健常者も障がい者も全員が大きな声で叫び、笑い、大汗をかいて楽しむことができた。

共生社会の構築には心のバリアフリーが必須だが、スポーツやゲームはいとも簡単にこのバリアを越えさせてくれる。思いやりの心の表現が素直に表わせるのだろう。

実施に当たって1週間前に市社協中西指導員の、ノーマライゼイション社会等の勉強会を持つ事が出来たのも意義あることだった。

和気あいあいの参加メンバー

車イスからもワンタッチだ!



# 児童養護施設「イースターヴィレッジ」を訪問して

増田　晴美

山辺地区民児協の施設訪問研修の一つとして参加、ここへは初めての訪問でしたが、JR小俣駅から5㎞程の山間にあり、昭和50年、聖フランシスコ病院修道会が虚弱児施設として開設し、その後平成10年に現在の児童養護施設になった由。

様々な事情で家族と生活を共にできない社会的養護を要する2～18才の子供達が、職員の方々と共に生活しています。入所理由は親の貧困や社会での孤立からの子供への虐待、発達障害が殆どだそうです。

現在幼稚園児1名、小学生11名、高校生7名、その他1名の計47名が入所しています。居住施設は6棟あり、ユニット式の部屋はとても明るくきれいで、心地よい環境と伺えました。

養護方針としては、

一、自分が一人の人間として大切にされていることを知る。

二、自分自身を大切にすることができるように。

三、自分で考え自分で決めることができるように。

四、相手の事を思いやることができるように。

五、みんなでよく話し合う。など基本的な目標を掲げています。

児童の多くが虐待の体験、発達障害や知的障害、病弱精神障害等を有している現状から、衣食住の保障に留まらない職員の方々の一人一人に対するきめ細かいケアを察すると共に、不登校児ゼロという事実に驚き、ここで子供達が健やかに成長していることをとても嬉しく思いました。

タオルや石鹸・文具等生活用品は必需品ですし、入所児童作品でのカレンダーも作成頒布しているので、民児協として提供及び購入の支援を呼び掛けていきたい。

作品カレンダー中の一枚です。

# あわやオレオレ詐欺に

## ――300万円、渡す直前に気づく――

これまで地区内で高齢者福祉に尽力され、オレオレ詐欺防止にも積極的に取り組んで来られたK氏が、「自分としたことがまさかだまされるとは。幸い実害には至らなかったが、もっと早く気付き、予防できるポイントがあるので参考にして」と一部始終を話してくれた。内容は正に複数の人間が登場して電話してくるリアルな同時進行型の典型的な劇場型詐欺である。

・始めに長男を名乗る男が「喉がおかしいので病院に来ている。手術の可能性も」の電話。

・暫くして次の電話「待合室に鞄をおいて診察受けていたら鞄が無くなっていた。今、会社や銀行への対応に追われている。病院の警備室には連絡した。」

・次に病院警備室からと言って電話「鞄はあったが携帯・財布・通帳等は入ってない。院内放送で呼び出したが本人と連絡取れないので自宅に連絡した。」

・長男を名乗る男より「警察と銀行にきている。病院の警備室はその後連絡してないが、鞄があったのならありがたい。すぐ病院へ戻って中身を確認する。」

・次の電話「盗られた通帳等会社絡みの金800万の支払いについて上司に来てもらい対応検討している。500万円はとりあえず上司が工面してくれるが残り300万円用立ててほしい。」

・すっかり信じておろしに銀行へ。銀行では詐欺を心配して種々質問や確認を促されたが、聞く耳を持たない返事をして300万おろした。

・頃を見計らって又電話来る。「自宅迄、取りに行く。」

・暫くして又電話「上司の用立ての内、その弟が佐野で200万用意しているので先にそこへまわる。準備できた300万を佐野まで持ってきてほしい。」

・佐野へ向かっている車の中でふと長男へ電話したくなり、会社へ電話したところ長男が出て、すべて架空の詐欺事件であることが判明・・・

・騙されない教訓

一、こちらから電話できないと言われても必ずこちらから架けて確認する。

二、第三者、特に銀行の人のいうことには素直に従うこと。